

ES/1 NEO

MFシリーズ

V05L21R2

Release News Letter

日立システム

目次

【お知らせ】

ES/1 NEO MFシリーズのサポートについて
PC製品 サポート終了のお知らせ

【HOST】

資源使用量比較一覧

【PC】

リリースニュースレター機能一覧 プログラム別	...	1
リリースニュースレター機能一覧 カテゴリ分類別	...	2
Performance Navigator	...	3

 株式会社 アイ・アイ・エム

本リリースニュースレターは、V05L21R2 のリリース内容をまとめたものです。過去のリリース内容につきましては、プロダクトメディア(x:¥Rnl)内のレターをご参照ください。

改版履歴

日付	版数	内容
2022/2/1	1	V5L21R2 リリース

ES/1 NEO MF シリーズのサポートについて

各バージョンの通常サポート期間はリリースより 30 ヶ月間です。

バージョンはバージョン、レベル、リビジョンからなり、レベルを基準とします。後継リビジョンのリリースに伴い、旧リビジョンのサポートは延長されます。

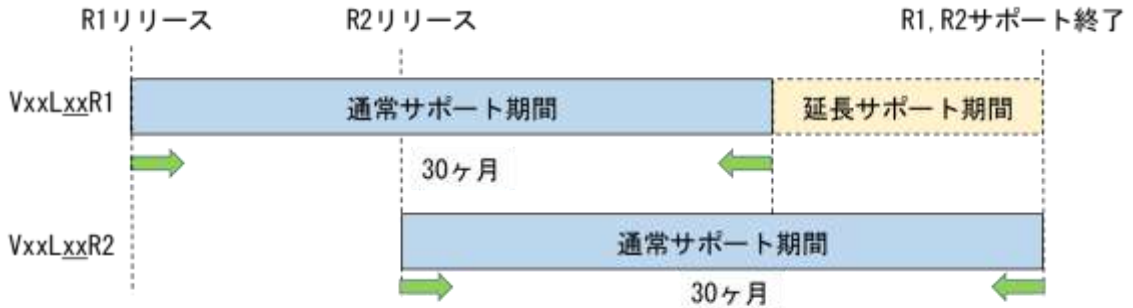


図. 製品ライフサイクルのイメージ

<バージョン（バージョン・レベル・リビジョン）の確認方法>

ES/1 実行ログにて確認できます。

例) V05L21R2 の場合

V 0 5 L 2 1 R 2

バージョン レベル リビジョン

```
LICENSEE ----- TRIAL USER
EXPIRATION DATE ----- 2022/5/31
VERSION/LEVEL/REVISION --- 05. 21. 02
```

<今後のサポート予定>

今後のサポート期間について、お知らせします。

バージョン	リリース時期	サポート終了予定時期
V05L21R2	2022年2月	2024年8月
V05L21R1	2021年10月	2024年8月
V05L20R3	2020年11月	2023年5月
V05L20R2	2019年11月	2023年5月
V05L20R1	2019年3月	2023年5月

<通常サポート中とサポート終了後の違い>

サポート終了後のバージョンも継続してご利用いただけます。

但し、不具合に対応した修正パッチは、最新リリースまたはサポート期間中のバージョンに対してのみの提供となります。サポート終了後のバージョンをご利用中に発生した不具合の対応については、原則として最新バージョンに対応した修正パッチを提供させていただきます。

	サポート期間中	サポート終了後
当該バージョンの継続使用	可	可
製品の使用方法に関するご質問	可	可
不具合発生時の調査	可	可※
不具合修正パッチの提供	可	不可

※ナレッジベースでの調査となります。

<バージョンアップのお願い>

通常サポート期間を終了したバージョンについては、限定的なサポートのみの提供となります。最新バージョンへのバージョンアップのご検討をお願いいたします。

以上

PC製品 サポート終了のお知らせ

現在、MF-eASSIST でサポートしています次のアプリケーションを、2022年7月31日にてサポート終了とさせていただきます。

<サポート終了アプリケーション>

Internet Explorer 8~11

V05L21R2 では、MF-eASSIST の対象環境は次の通りとなります。

<オペレーティング・システム>

Microsoft® Windows® 8.1

Microsoft® Windows® Server 2012

Microsoft® Windows® Server 2012 R2

Microsoft® Windows® 10

Microsoft® Windows® Server 2016

Microsoft® Windows® Server 2019

Microsoft® Windows® Server 2022

<アプリケーション>

Microsoft® Excel2013 / Word2013

Microsoft® Excel2016 / Word2016

Microsoft® Excel2019 / Word2019

Microsoft® Excel2021 / Word2021

Microsoft® 365 Apps (Office®365)

Internet Explorer 8~11 (※2022年7月31日まで)

Windows Edge

Google Chrome

.NET Framework 4.5.2 以上

以上

ES/1 NEO MFシリーズ V05L21R2 資源使用量比較一覧

本資料は、ES/1 NEO MFシリーズ V05L21R2 と、以前のリリース（V05L21R1）との資源使用量比較一覧です。
各項目の意味は以下の通りです。

CPU	以前のリリースと比較し、CPU時間が1割以上増加することがある場合、●としています。 この結果は、入力されるデータにより異なります。
STG	本体 以前のリリースと比較し、使用仮想記憶域が増加した量を示します。 この結果は、入力されるデータには関係ありません。
	データ 以前のリリースと比較し、上記本体の増分以上に使用仮想記憶域が増加することがある場合、●としています。 この結果は、入力されるデータにより異なります。

		V05L21R1 vs V05L21R2		
		CPU	STG	
			本体 (KB)	データ
MF-ADVISOR	CPECNVRT	—	0	—
	CPEPRT00	—	0	—
	CMOSPRT0	—	0	—
	HIBICHKO	—	0	—
	CPEREG00	—	0	—
	SMFPRT00	—	0	—
	CPEDSN00	—	0	—
	RAIDPRT0	—	0	—
	RAIDCNFO	—	0	—
	SADPRT00	—	0	—
	XDMPRT00	—	0	—
	VOLLSTHO	—	0	—
MF-MAGIC	CPEDBAMS	—	0	—
	BOXSYS00	—	0	—
	BOXSAD00	—	0	—
MF-SCOPE	JOBANLST	—	0	—
	JOBMONTH	—	0	—
	JOBDTL10	—	0	—
	AUDITPRT	—	0	—
	AUDITMON	—	0	—
	PNAVIADT	—	0	—
MF-PREDICT	PRDIOS00	—	0	—
	CPEDSN00	—	0	—
	CPEREG00	—	0	—
MF-AUDIT	AUDITPRT	—	0	—
	DSNCSV00	—	0	—
	AUDITMON	—	0	—
	PNAVIADT	—	0	—
MFシリーズ 支援ライブラリ	CPEDASD0	—	0	—
	CPEVOLGP	—	0	—
	CPETAPE9	—	0	—
	DSNCSV00	—	0	—
	TSSCSV00	—	0	—
	JOBDSNCV	—	0	—
MF-eASSIST	PNAVICEC	—	0	—
	PNAVISAD	—	0	—
	PNAVIXDM	—	0	—
	PNAVJOB0	—	0	—
	PNAVJOB1	—	0	—
	PNAVIVSP	—	0	—
	PNAVIADT	—	0	—

※本体の使用仮想記憶域の増加が大きい場合、該当の箇所の色を付けて表示します。

例.	MF-ADVISOR	CPEPRT00	—	124	—
		CMOSPRT0	—	4	—

注意：(1) 本資料は弊社環境 (IBM環境) での結果に基づいています。環境により異なる場合がありますので、参考資料としてください。
(2) 実行時に仮想記憶領域不足が発生する場合、OVER16機能をご使用ください。

【OVER16機能 指定方法】 実行するプロセッサのJCLに次のような指定を追加してください。
REGIONサイズの指定は、お客様の環境に応じて変更してください。

```
//SHELL EXEC PGM=CPE SHELL, REGION=(, 1024M), PARM=PARM <=追加・変更
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSUDUMP DD SYSOUT=*
//SYSUT1 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (10, 5))
//CPEPARM DD * <=追加
OVER16=SYMBOL <=追加
OSTYPE=#OSTYPE <=追加
```

OVER16機能の詳細につきましては「ES/1 NEO MFシリーズ 使用者の手引き 共通編 (IBM / 富士通 / 日立システム)」
'3.3.2 OVER16機能' をご参照ください。

ES/1 NEO MFシリーズ【PC】リリースニュースレター機能一覧 プログラム別

プログラム	分類	項番	項目	参照ページ	記事番号
Performance Navigator	拡張	1	Microsoft®365 Apps環境への対応	3	521-050
	拡張	2	Microsoft® Windows® Server 2022への対応	3	521-051
	拡張	3	Microsoft® Office 2021への対応	3	521-052
	拡張	4	Microsoft® Office製品の使用を最小限にするオプションを拡充	4	521-053
	変更	5	一部動作のデフォルト値を変更	5	521-056

ES/1 NEO MFシリーズ【PC】リリースニュースレター機能一覧 カテゴリ分類別

拡張一覧

プログラム	分類	項番	項目	参照ページ	記事番号
Performance Navigator	拡張	1	Microsoft®365 Apps環境への対応	3	521-050
	拡張	2	Microsoft® Windows® Server 2022への対応	3	521-051
	拡張	3	Microsoft® Office 2021への対応	3	521-052
	拡張	4	Microsoft® Office製品の使用を最小限にするオプションを拡充	4	521-053

変更一覧

プログラム	分類	項番	項目	参照ページ	記事番号
Performance Navigator	変更	1	一部動作のデフォルト値を変更	5	521-056

Performance Navigator(拡張)

521-050. Microsoft®365 Apps 環境への対応

Microsoft®365 Apps (旧名 : Office®365)に対応しました。対象となる更新チャンネルは次の通りです。

<更新チャンネル>

チャンネル	バージョン	ビルド	サービス開始日
半期エンタープライズチャンネル	2102	13801.21004	2021/07/13

521-051. Microsoft® Windows® Server 2022 への対応

Microsoft® Windows® Server 2022に対応しました。

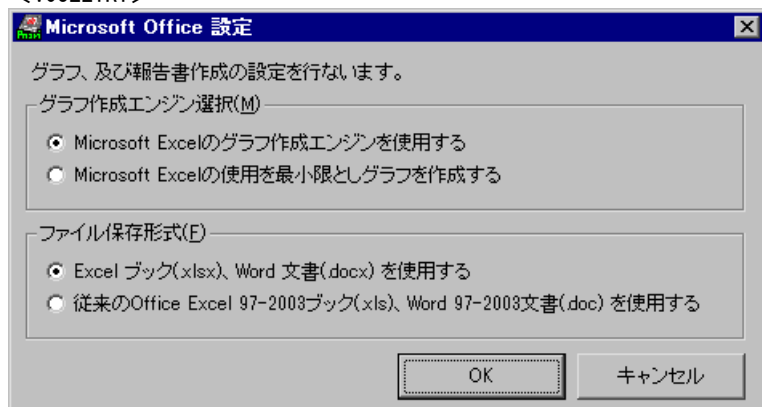
521-052. Microsoft® Office 2021 への対応

Microsoft® Office2021に対応しました。

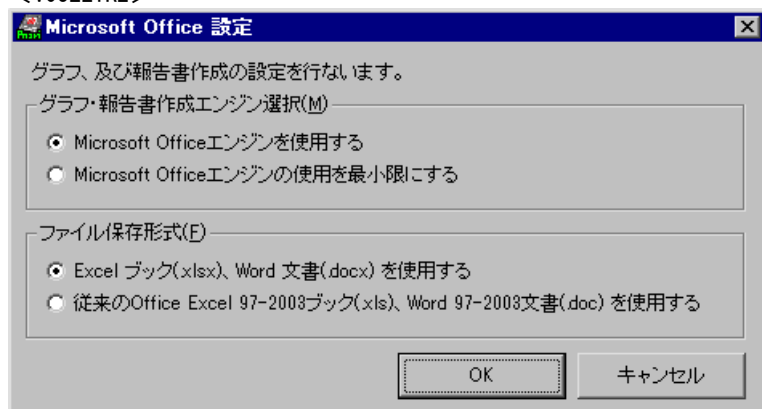
521-053. Microsoft® Office 製品の使用を最小限にするオプションを拡充

Microsoft® Excel だけでなく Microsoft® Word の使用も最小限にできるように拡充しました。この拡充に伴い、GUI の文章を変更しました。『Microsoft Office エンジンの使用を最小限にする』を選択した場合、WORD 文書にグラフを貼り付ける処理で別アプリケーションを使用します。それに伴い、報告書貼り付け時のログファイルを新規に出力します。

<V05L21R1>



<V05L21R2>



【新規出力されるログファイル】

- ・ x:¥IIM¥MF¥Pnavi¥PasteToWord. log

【注意/制限事項】

- ・ V05L21R1 で『Microsoft Excel の使用を最小限』を選択していた状態でバージョンアップした場合、貼り付け方法の変更により DOC 形式の報告書の見栄えが変化します。
- ・ V05L21R2 で『Microsoft Office の使用を最小限』を選択した場合、HTML 形式の報告書は作成できません。ただし PWS グラフと連携用インデックス (PHIndexR. txt) は正常に作成できます。

Performance Navigator(変更)

521-056. 一部動作のデフォルト値を変更

一部動作の設定選択のデフォルト値を変更しました。

この変更に伴う従来の WORD 報告書作成処理には影響ありません。

動作	変更前	変更後
PWS 連携をする or しない	しない	する
PWS 連携用インデックス (PHIndexR.txt) を作るタイミング	報告書作成時	グラフ作成時